

新退教通信

No.174

2018.3.1

新 退 教 員 連 絡 協 議 会
〒025-281-8146

〈今だからこそ〉 研修し、ともに行動したい



新退教副会長
米山忠彦

この1年間、本部役員の一員として新退教の活動に携わって来ました。印象に残ったのは、「会のために」と活動に取り組む役員の方々の姿であり、会員、特に女性のみなさんからの率直な意見や感想でした。

それらは、これからの新退教運動を考えるための内容を示唆するものでした。

10月の「学びの集い」では、「総選挙を受けてーこれからの政治・経済ー」というテーマで研修しました。多くの方々から「〈今だからこそ〉、政治や社会の状況など現在の日本の姿を知る研修、集いの場の工夫を」という意見をいただきました。

日本の財政状況は厳しく、このままでは、

年金や医療などの給付カットは避けられない状況です。それにも関わらず、政治家は将来の厳しさを説かず、「ともかく今さえよければ」という先送りのスタンスです。憲法では「護憲」か「改憲」か、原発でも「活用」か「ゼロ」かの二元論、現実と将来を複眼的に見極めた政策立案、「納得感」のある提案・説明はありません。

こんな任せておけない〈今だからこそ〉、現実の姿を知る「学びの場」を設けたい。本部、支部で、教え子を講師に招くなどして、具体的な論議をしたいものです。

12月恒例の「支部代表者会&教育問題懇談会」では、新教組本部役員から、多忙化解消の取組の報告がありました。新退教会員からは「退職しても気にかかる。教育の動向や現状をもっと知りたい。教えて欲しい。」と、質疑&意見交換は盛り上がりました。

多くのことが求められ、「あんこ食み出し状態が続く教育現場」、〈今だからこそ〉子ども・後輩のために、新教組とのつながりをより強めたい。例えば、新退教通信などのたよりに「教育の今(仮)」コーナーの設置、支部での懇談会を実施する。そして、新教組OBとして、請願署名等への協力、学校をサポートする活動などが出来たらと思います。

「〈新退教だからの活動〉」の工夫が、仲間を増やすことにつながるのではないのでしょうか。

目次

(敬称略)

1p	巻頭言	米山 忠彦
2p	支部代表者会、旗開き	
3p	改憲を問う	
4p	支部からのたより	
	三南支部	宮島 敏明
	柏刈支部	深澤眞佐子
	北新支部	有田 好
	長岡支部	久保田啓子
	北魚支部	武田 定純
5p	がんばれ後輩	立石 直子
		小野 澄江
		工藤ひとし
		高橋 初敏
6,7p	こちら新学協 会員の広場	丸山 容子



「藍染タペストリ」
佐久間節子さん

健やかに老いる

年寄りしかできないこと、年寄りだからできること、年寄りの使命として、年寄りの手で実現させよう。

日野原重明